

* 編集後記 *

日本は地震を含め、自然災害が多く発生している国ですが、近年では酷暑に加え大型台風やゲリラ豪雨による災害が多発しており、これらに対するジオシンセティックスの利用も検討課題もあるかと思えます。本号は、「発泡ジオシンセティックス」をテーマに関係各所の皆様にご執筆いただきました。

冒頭の展望では、安原一哉先生に「発泡ジオシンセティックス (FGS)」と題してご執筆いただきました。EPSをはじめ、発泡ウレタン等に関する工法や現在求められている社会的な背景を踏まえた内容で構成されております。ぜひご一読いただきたいと思います。

技術報文では、発泡ジオシンセティックスに関連して「現場発泡ウレタンによるトンネル覆工背面の空洞充填」、「フォームサポート工法」、「EPS 盛土の災害と対策案について」、「地下水位が高い国道工事における浮力対策の施工事例」、「EPS 盛土の地震時挙動に対する実験及び解析」の5編についてご執筆いただいた。各内容とも貴重な実験および検討を行った結果が報告されているため、ご一読いただきたいと思います。

未筆となりましたが、ご多忙の中で原稿の執筆にご快諾いただいた方々と、編集にご協力いただいた皆様に心よりお礼申し上げます。

本号担当：山中光一、西村淳、内村太郎

IGS日本支部編集委員会(名簿)

委員長	木幡 行宏	室蘭工業大学大学院 工学研究科
幹事	西村 淳	三井化学産資(株) 事業本部
幹事	榊尾 孝之	大嘉産業(株) 産業資材事業部 開発部
委員	内村 太郎	埼玉大学大学院理工学研究科
委員	江崎 孝二	ユニチカ(株) 不織布事業本部
委員	小浪 岳治	岡三リビック(株) 研究開発部門
委員	竹本 慎一	(株)クラレ 繊維カンパニー
委員	高橋 真一	(株)大林組 技術研究所
委員	土橋 和敬	前田工織(株) 環境資材事業本部
委員	角田 晋相	(株)銭高組 技術本部技術研究所
委員	藤城 裕也	太陽工業(株) 国土事業本部
委員	山中 光一	日本大学 理工学部

IGS日本支部会員現在数(2023年7月末現在)

個人会員 199名 学生会員 3名 特別会員 18社 合計 220名

令和5年7月25日

ジオシンセティックス技術情報(国際ジオシンセティックス学会日本支部・会誌) Vol.39, No.2
発行: 国際ジオシンセティックス学会日本支部

〒112-0011 東京都文京区千石4丁目38番2号 (公益社団法人 地盤工学会内)
事務連絡: 〒338-8570 埼玉県さいたま市桜区下大久保255
埼玉大学 工学部 環境社会デザイン学科 内村研究室内
TEL 048-858-9002 FAX 048-858-3573 E-mail secret@jcigs.org